



北方生物圏フィールド科学センター
生物生産研究農場
教職員写真同好会 伊藤仁浩

KIBO NO NIJI きぼうの虹

発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面五面 新型コロナウイルスを乗りきる
- 六面 ころの健康を考える⁽⁶⁵⁾ 対面じゃない対人関係
- 七面 北大キャンパスの遺跡へ行こう 最終回

今から20年前、南フロリダ大学の留学先で初めてその細菌の洗禮を受けた。誤解して欲しくないのだから、指南を受けた。本来の感染部位ではない血管壁から分離されたので動脈硬化症を起すのではと、ちよっとした話題になった。クラミジアが体内を循環するために必要なもの、リンパ球細胞への感染性を確かめるための実験を行っていた。その感染細胞の容姿を透過型顕微鏡で観察して見ると、幾つかの細胞核が端を追いやり、それにとっただけの大きな楕円形のリングがのたがひに包まれている。淡い膜状の菌体が現れたのである。

新型コロナウイルスの名前は、知らない人はいないだろうが、僅か1μmにも満たないクラミジアという細胞内でのみ増殖する一風変わった病原細菌をご存じだろうか。「人間の10%程度が感染している性感染症を起す病原体」というと、あああの厄介者かとお分かりになる方もいらっしゃるやもしれない。しかし、クラミジアは、細胞機能をハイジャックする達人であり、その感染細胞は生命原理を紐解く有用なモデルといつてよい。さらに顕微鏡下に浮かび上がるその姿は、実に美しい。

今から20年前、南フロリダ大学の留学先で初めてその細菌の洗禮を受けた。誤解して欲しくないのだから、指南を受けた。本来の感染部位ではない血管壁から分離されたので動脈硬化症を起すのではと、ちよっとした話題になった。クラミジアが体内を循環するために必要なもの、リンパ球細胞への感染性を確かめるための実験を行っていた。その感染細胞の容姿を透過型顕微鏡で観察して見ると、幾つかの細胞核が端を追いやり、それにとっただけの大きな楕円形のリングがのたがひに包まれている。淡い膜状の菌体が現れたのである。

クラミジアという病原細菌の話

大学院保健科学研究科
病態解析分野
感染制御検査学研究室
教授

山口 博之

Opinion!



細胞内に取り込まれた異物は、リソソームという分解酵素が詰まった袋と合体し容易に分解される。この菌体粒子は、いまにもこちらに弾き飛ばされてきそうに思えるほど、瑞々しく躍動感に満ち溢れていた。どのようか。環境を自分好みに作り変えていくのか。

私たちが、リンパ鼠肉芽腫を起すクラミジアが、その生存性を維持するための細胞核をなすP13K-AKT経路の活性化を通して低酸素細胞環境に適応していることを発見した。この特性は、奇しくもがん細胞の挙動と瓜二つである。クラミジアの低酸素環境への適応能力を妨げるような物質は、抗がん剤の標的候補になるかもしれない。厄介者と詰められるこの病原体ではあるが、人類より遙か遠い昔から地球上に宿つていた生命体の一つであり、人類が遺伝子には青写真として刷り込まれているはずである。しかし、その美しい容姿とは裏腹に、クラミジアはそうやすやすと私たちを微笑んでくれない。だから生命原理の醍醐味の日がくることを夢見て。

私たちが、リンパ鼠肉芽腫を起すクラミジアが、その生存性を維持するための細胞核をなすP13K-AKT経路の活性化を通して低酸素細胞環境に適応していることを発見した。この特性は、奇しくもがん細胞の挙動と瓜二つである。クラミジアの低酸素環境への適応能力を妨げるような物質は、抗がん剤の標的候補になるかもしれない。厄介者と詰められるこの病原体ではあるが、人類より遙か遠い昔から地球上に宿つていた生命体の一つであり、人類が遺伝子には青写真として刷り込まれているはずである。しかし、その美しい容姿とは裏腹に、クラミジアはそうやすやすと私たちを微笑んでくれない。だから生命原理の醍醐味の日がくることを夢見て。

体近傍に移動し、ゴルジ体を取り取り、それらを栄養源の一部として利用する。1個のクラミジアが感染した細胞では、しまじには数千個にも達し、その袋は、頃合を見計らい一瞬にして細胞もろとも粉々となり、隣接する細胞へと二次感染を起してしまいくのだが、その消滅してしまふ様は、まるで手品を見ているように圧巻である。これほどまでに手の込んだ細工をよくもまあこんな小さな細菌が袋越しにやっつてのけるな、とただただ感心するばかりである。

北海道大学院 渡邊 誠
北海道大学院 高倉 純
北海道大学埋蔵文化センター 高倉 純

新型コロナを乗りきる

～新たな学生生活に向けて～

北海道内で初めてコロナウイルス感染症患者が確認されたのは1月28日で、その後、感染は全道に広がり、北海道知事は「新型コロナウイルス緊急事態宣言」を発表、道民に不要不急の外出の自粛を要請しました。政府も4月上旬に緊急事態宣言を全都道府県に発令し、人との接触を8割減らすという行動目標のもと、自粛生活、いわゆる、ステイ・ホームが始まりました。未知のウィルスの出現は大学の教育方法や研究活動に大きな影響を与えました。

日本中が混乱し、教職員がコロナウイルスへの対応に追われている中、学生たちはどのように過ごしていたのでしょうか。また、彼らは、何に不安を抱え、どのように行動しようとしていたのでしょうか。外出自粛要請が解除され、学生たちが大学に戻ってきたとき、私達は彼らにどんな言葉を掛けたら良いのでしょうか。

全国と北海道の大学生生活の比較

保健科学研究院 リハビリテーション科学分野 助教 笠原 敏史

5月下旬に全国大学生生活協同組合連合会・広報調査部が全国の大学生と大学院生を対象に第2回緊急アンケートを行い、1万5千人を超える大学生（北大生含む）から回答を得ました。このアンケート結果から、全国と北海道の大学生と比較しながら、教職員の皆様とコロナ禍での学生の不安な生活についての情報を共有したいと思います。

大学生の生活・経済状況

外出自粛要請を受け、回答した学生の約7割がアルバイトや部活・サークルの時間が「0分」と回答していました。全国の調査(43%)と北海道の調査(36%)とも多くの学生がアルバイトができず、収入が減っている状況でした(図1)。これと関連して、全国調査では約6割以上の学生が「この先の経済面について不安である」と回答していました。

新型コロナウイルス流行によって全国と北海道とも約4割の学生が、「食事環境や食生活

が変化した」と回答していました。1日の食費の変化について、全国と北海道の学生の約3割が変わらないと回答し、約4割の学生が「増えた」または「減った」と回答していました。特に、北海道では「食事にかけるお金がない」と回答した学生(約15%)が、全国の学生(約12%)よりも多い結果でした(図2)。

業で長い時間。パソコンやスマホの画面を見つめていたり、同じ姿勢でいるため、多くの学生が「目の疲れや肩こり」を挙げたと思われま。その他の項目からは自粛生活による精神的なストレスがかかっていることがうかがわれます。また、運動している時間も「0分」と「30分以内」と回答している学生が過半数を超えており、コロナ感染発生前の活動量を考えますと非常に運動不足であることがわかります。新型コロナウイルス流行による自粛生活は学生たちの生活を著しく制限させ、身体的にも精神的にもストレスを与えています。今後は、経済面のサポートや心身のケアが必要であると思えます。

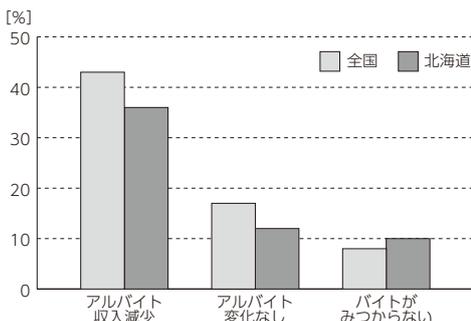


図1：アルバイトの現在の状況

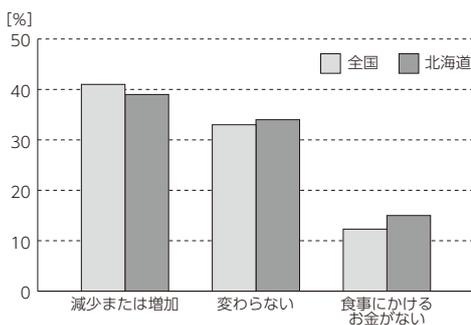


図2：1日の食費の現況

いじわるじいさん

新型コロナウイルス禍の下、政府は緊急事態宣言で外出自粛と在宅勤務を要請した。しかし、医療、配送、食品業界等は在宅勤務は不可能▼介護職の友人も出勤し続けた。清掃と消毒、入所者の体調確認、コロナの疑いが晴れるまで徹業者の隔離：感染対策業務が加わって忙殺される日々。マスクも消毒薬も遅かった。ここに老健施設で集団感染というニュースが入り、緊張が走った。本当に怖かったという▼コロナの荒波は、社会に不可欠な仕事は何かを露わにした。それらの業務従事者をエッセンシャルワーカーと呼ぶようになったが、彼らの多くは、感染の危険に身をさらしているにも関わらず低賃金だ

▼友人は、首相が関係閣僚に指示したという医療・介護のデジタル化の加速を危惧する(6月22日、経済財政諮問会議)。デジタル化での業務軽減は歓迎するものの、見守りセンサーは入所者の異常を知らせるだけ。駆けつけるのは人間だ。福祉より経済優先としか見えない政府では、人員削減へと動きかねないのでは?介護労働者は厳しくなるばかり▼世の中の激変で仕事の評価が変わった今、政府にも、社会を支えるエッセンシャルワーカーの存在を見直してほしいものだ。(今日子)

大学の講義

ほとんどの大学では対面形式ではなくインターネットを介しての遠隔授業を行ってしました。学生はパソコンやスマートフォンを用いて受講していましたが、全国で約4割の学生、そして、北海道ではさらに増え約5割の学生が通信状態に対して「時々途切れることがある」、または、「かなり途切れ、ストレスを感じる」と回答していました(図3)。さらに、webカメラやマイクなどの商品が一時品薄状態になりました。今後もインターネットを介しての遠隔授業が継続されることを考えますと、ストレスのないインターネット環境の整備が必要と思われる。

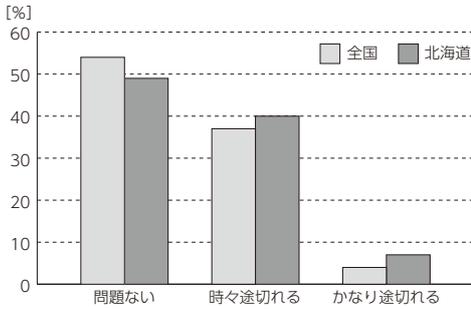


図3：遠隔授業中の通信状況

れます。また、対面形式の講義や実習などが再開されるためのために感染予防のための可能な限りの対策を準備しなければならぬと思います(例えば、手洗いの石鹸や消毒薬、マスクや手袋など)。特に、最終学年の学生は、卒業が出来るかどうか非常に不安に思っています。卒業研究などの研究活動の早期の再開が待たれるところです。

悩み・進路について

ほとんどの学生は、「困りごとがあったときに相談できる人がある」と回答していました。しかし、数としては少ないのですが、「いなくて、相談相手ほしい」と回答した学生が北海道では約14%、全国では約7%であり、北海道の割合は全国の倍でした(図4)。この結果は重く受け止められなければならず、相談相手がいないと困っている学生を早急につけて、不安な声を聞くなどの心の寄り添いが必要であると思います。調査時点で、今後の進路について半数以上の学生が「悩んでいる」と回答していました。現在(この原稿を執筆している7月上旬)は少しずつ自粛が解除され、

経済活動も徐々に再開されているところですが、これまでの経済的な損失は甚大なものです。世界経済が新型コロナウイルスの発生前までに回復するには数年から数十年かかるといふ報告もあります。来年度の新規採用を見送る企業もみられ、学生の力だけではどうにもならないことが多くあります。社会全体で未来ある学生の将来のために出来る限りの支援をお願いしたいところです。

このように、新型コロナウイルスの発生によって、学生の生活や学びは大きく変わりました。国が示した「新しい生活様式」の実践に向けて、特に、4項目の「働き方の新しいスタイル」を「学び方の新しいスタイル」に置き換えて、一人ひとり

が行動変容に努め、困難な中でも充実した大学生活を送って頂きたいと思います。最後に、一日も早い収束と、皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。

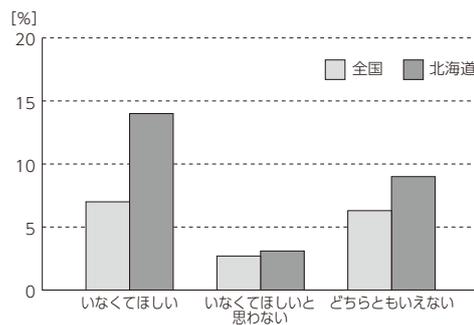


図4：相談相手に関して

新型コロナウイルスの影響は北大生でも深刻

大学院農学研究 講師 清水池義治

4月10日から22日にかけて、オンライン授業に向けた学生のネット環境と新型コロナウイルスによる学生生活への影響の把握を目的として、本学農学部・農学院の学生を対象としたアンケート調査をウェブ上で実施しました(日英語併記)。最終的に、回答数は662でした。

衝撃的だったのは、新型コロナウイルスの流行拡大に伴う1か月あたりの収入(親からの仕送り

と奨学金を含む)の変化を聞いた設問でした(図参照)。回答数556(無回答6除く)のうち、変化なし(収入増含む)は38.6%だったものの、全体の61.4%は収入が減ったと回答しました。具体的には、1〜3割減少32.0%、4〜6割減少15.1%、7〜10割減少14.3%であり、そのうち10割減少、つまり収入が全くゼロになったと回答した学生は7.5%(実数49名)もいました。北海道大学は他の大学と比べて高所得世帯出身が多いと想像されますが、それでもこの比率です。緊急事態宣言でアルバイトができない、実家からの仕送り減少などが原因と考えられます。極めて深刻な事態です。5月末に緊急事態宣言は解除されましたが、アルバイト収入の減少は続いていると思われ、状況のさらなる深刻化が懸念されます。

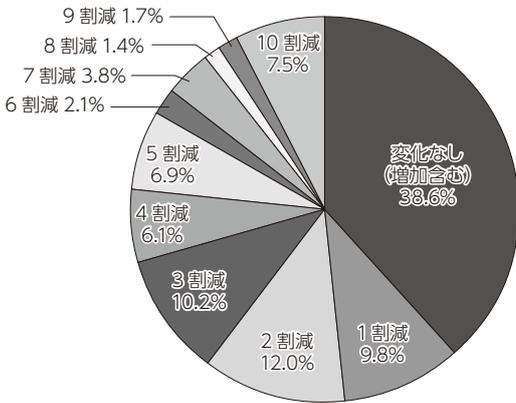
新型コロナウイルスで不安に感じていることを複数回答で聞くと、新型コロナウイルス感染62.9%(回答数/回答者数「558」、以下同じ)、就職活動・進学への影響53.2%、自粛による肉体・精神面の影響48.3%、講義・ゼミ実施困難による学習面の影響47.

4%、収入減少など経済面の影響37.5%などでしたが、経済的な影響が極めて深刻と推察される家賃・学費の支払い困難との回答は9.6%もありました。本学教育学部のアンケートでも同様の設問に対する回答率が1割程度あり、どの学部でも同じ状況と思われます。

また、学生のインターネット環境(5月上旬時点、予定含む)は、93.8%が自宅インターネット接続可能と回答し、その契約はデータ使用量無制限が75.6%、データ使用量制限ありが21.9%でした。全ての講義・ゼミがオンラインになって

も対応可能と答えた学生は82.0%でしたが、スマホ・パソコン等を不所有、ならびに自宅がインターネット環境にない学生はそもそもアンケートに回答していない可能性が高いと推測されるため、実際の値は上記より低い可能性があり、注意が必要です。オンライン授業はすでに一定期間行われましたが、後期に向けて

問題の洗い出しが必要ですが、すでに、国による緊急給付金、本学独自の緊急支援金、農学部では札幌農学同窓会の独自給付金の申請・給付が始まりました。また、オンライン授業支援として、ノートパソコンやモバイルWi-Fiの貸し出しも行われました。6月9日・10日には、農学同窓会が米や牛乳の無償配布を実施しました。ただ、学生が被っている影響は現在も継続、拡大しています。大学独自の支援には限界があり、未来ある学生が修学を継続するには、国による学費大幅減免や給付金の金額・対象範囲の拡大といった措置を考える必要があるでしょう。



図：1ヶ月あたりの収入(仕送り・奨学金含む)の変化

北大生協の新型コロナウイルス感染予防対策のご報告

北大生協 理事会室

北大生協は2月に対策方針を策定して、それに基づいて様々な対策を行っています。また、北海道から提唱された「北海道スタイル安心宣言」にも対応した取り組みを行っています。

全ての生協職員のマスク着用や手洗い、出勤時のアピアランスチェック(体調確認)を徹底しています。全店でアルコール(または弱酸性次亜塩素酸水)消毒液の設置、レジ周りのビニールカーテン、立ち位置の表示などを標準で行っています。

学務部学生支援課様と各学部様のご負担で、7月末までに全ての食堂のテーブル上に衝立を設置いたしました。給茶機の使用停止、箸やスプーンを配膳口の職員がトレーに置いたり、個包装の調味料の利用などで接触を避ける工夫をしています。換気やテーブルの定期的な清掃なども行っています。

感染予防は、ご利用される皆様のご協力も必要です。お食事を済ませましたら、速やかに席を離れてください。研究室でまとまって食事をされている様子も散見されますが、会話をせず、時間差でご利用いただくなどの配慮を頂ければ幸いです。

その他、3密を避ける方策として、新入生向け教科書販売では通信販売を行いました。学生マンションでの出張弁当販売も7月末まで行っています。

5月、非医療用マスク1万枚を北大病院へ寄贈させていただきました。

なお、予防対策についての詳細は、北大生協ホームページに掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

『北海道スタイル』安心宣言
北大生協は、3月から新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「7つの誓い」に取り組んでいます。

- 生協職員のマスク着用やこまめな手洗い
- 生協職員の健康管理の徹底
- 食堂・店舗内の換気
- 食堂・店舗内の定期的な消毒・清掃
- 人と人との接触機会を減らす取り組み
- 組合員の皆さまにも、検温チェックと手洗いの店頭の消毒液のご利用をお願いします
- 北大生協の取り組みをお知らせします

新型コロナウイルス感染症対策
食堂の利用について

食堂における新型コロナウイルス感染症の感染リスクを低減するため、次の通り協力をお願いします。

- 体調不良の場合は食堂利用の自粛
- 食堂利用前後の手洗い・アルコール消毒
- 生協電子マネー・マイルカードの利用
- 飛沫感染防止
- ホール内の距離回復
- 食事後は速やかな退席



北大生協ホームページ



新型コロナウイルスへの備え

北海道大学大学院工学研究院 特任教授 羽山 広文

三密（密閉・密集・密接）の回避 ヒトの生命活動に 欠かせない換気

中国武漢で発生したとされる新型コロナウイルス(COVID-19)は、瞬く間に全世界に感染範囲を広げ、多くの感染者と死者が出ていることは周知のとおりです。本学においても昨年度末から現在に至るまでの学内行事や授業・研究活動に多くの支障を来たしています。5月中旬頃から感染者数が減少したものの、市中では随所でクラスターが発生し、何時、誰もが感染する可能性があります。日本政府は、「新型コロナウイルス感染症に備えて、一人ひとりができる対策を知っておこう」と題し、Webで分かり易く周知しています。この中に、「三密（密閉・密集・密接）の回避」が重要と記されています。特に「密閉」とは密閉空間換気の悪い密閉空間を指しており、建築環境学の立場でその重要性を解説します。

空気は、水や食料などと並んでヒトの生命活動に不可欠な要素です。体重50kgの成人は1回あたり約0.5Lの空気を吸込みます。1分間に20回呼吸すると、1日あたり14.4m³(17.4kg)、1年あたり5300m³(6.4t)、人生80年で換算すると42万m³(510t)にもなります。空気はヒトが一生の間で体内に取り込む最も多い物質です。

一方、ヒトは呼吸により空気中の酸素を吸収し、二酸化炭素を排出します。二酸化炭素は空気など地球の環境中にありふれた物質ですが、空気中の二酸化炭素濃度が3〜4%を超えると頭痛・めまい・吐き気などを催し、7%を超えると数分で意識を失うことがあります。建築物における衛生的な環境の確保を図ることを目的とした建築物衛生法では二酸化炭素濃度1,000ppm(0.1%)の基準が設

けられ、一人あたり30m³/hの換気量が目安とされています。この基準を満たさなければならぬ建築物は床面積が3,000m²以上の特定建築物です。特定建築物には興行場・百貨店・集会場・図書館・博物館・美術館・遊技場・店舗・事務所・旅館(ホテル)が含まれ、また、床面積が8,000m²以上の学校も含まれるので、本学の校舎にも適用されます。

建築物の換気設備の 適正な運用

建築物には在室者に新鮮な空気を提供するため換気設備が設けられています。しかし、これを運転しなければ適性に換気が行われません。忘れずスイッチON(写真1)にしましょう。また、換気設備は循環する空気に含まれる塵埃を除去するため、フィルターが設置されています。このフィルターが塵埃により目詰まりすると、所定の換気量が確保できません。適正な運用には最低でも年間2回程度のフィルターの清掃が欠かせません。

一方、一時的に換気量を増加させるには、窓を開けるなどの通風換気が有効です。雨天や強風など天候に左右されやすく、また、寒冷な時期には窓の近くが寒くなりますが、中間期や夏期では積極的に活用したい換気方式です。

工学部食堂での対策

本学の工学部食堂ホールを対象に建築環境学を専門にする教員らの協力で対策しました(写真2)。まず、定数の椅子を1/4ほど撤去して座席数を削減し、密集を回避しました。次にテーブル中央のプラ段ボールにより呼吸からの飛沫拡散を防止し、密接を回避しました。最後に、二酸化炭素を用いた減衰法により換気量を計測し、密閉を回避する適正人数を求めました。その結果、換気条件毎の許

容収容人数(30m³/h・人)を算出したところ、条件1(通常換気のみ)238人、条件2(通常換気+窓開け)315人、条件3(通常換気+窓開け+廊下窓開け)416人でした。窓開けによる通風換気効果が取れます。



写真1 換気・空調設備のスイッチ



写真2 工学部食堂ホールの状況

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



メールって疲れるよな、と思ってました。基本的に文字だけで色々なことを表現するので、気を遣います。声もない、表情もない、仕草もない……直接対面しての対人関係では、これらの言葉そのものではない部分によるコミュニケーションの比重が、思いの外高いとされていて、七、八割にもなると言います。とくに心理カウンセリングではそれが重要で、声だけに頼る電話カウンセリングは、やってみるとかなり難しいと感じましたし、メール・カウンセリングとなると、さらに難しいものでした。言葉にはなりづらい何かが、大切だと思ってきました。授業も、なにせ担当しているのは心理的支援に関するものがほとんどですし、言葉そのものでは伝わりづらいものを伝えようと、音楽のライブをお手本にして、あれこれ考えたり、実践したりしてきました。

ところが、新型コロナウイルスが蔓延し出すと、あつと言間に、対面での対人関係を可能な限り避けよ、という話になってしまいました。そして感染の可能性のないインターネットを通じた対人関係の比重が、いきなりものすごく高くなりました。直接会話を交わすのは、家族くらい、あとは全部ネットを通じて、という生活。皆さん、多分、そうですね。授業は、遠隔テレビ会議システムを使って、ということになり……うーん、表情やら仕草やら声の調子やらが微妙に影響し合っただけで教室の雰囲気みたいなものはどうなるんだ、そもそも参加者同士のかかわりがほとんど言葉だけになるのか？そして、みんな笑ってくれるのか（誰も笑わない授業がツライんです）……困りました。でも、命と引き換えては、やるしかありません。なんとか始めて、技術的な問題に日々翻弄されるということも落ち着き、対面じゃない形の授業にも慣れるうちに、ひよつとするとこの形態には、積極的な可能性があるんじゃないかという気がしてきました。



考えてみると、直接対面するのではない人と人のかかわり方には、長い歴史があると思います。いにしえは、文（ふみ、手紙ですね）と和歌でしようか。絵もあつたのかもありません。手紙は数十年前まで続き、和歌の方は、大量伝達手段としての音楽に形を変えたようにも思えます。映像が加わったのは、比較的最近のことでしょうか。これら、なにかの媒体を介した人と人とのつながりは、そもそも対面以上に深いものでたのではないかと、ヘッドホンを通じて音楽が鳴り始めること、目の前の風景がいきなり現実感失って、音楽が現実を超えた現実としてまざまざと迫ってくる……これは私には馴染み深い経験でした。文章に同じことを感じる人もいるのではないのでしょうか。通信手段の極端な発達によって、文章も、音楽も、映像も、非常に手近な媒体となりました。何かの媒体を通じてこそ、人と人とは深くかかわりあえる、もしかするとそうなのかもしれないと思えます。

でまあ、そんなことを考えて一人で盛り上がったたりしているのですが、現実の遠隔授業の方はと言うと……そこまでの手応えは持てないところですね。ただ、質問がすごく多くなったのにはこれえようとして始めた文章による返答は、口頭説明を超える深さが出てくる気はしたのです。手間がめちゃくちゃかかるのは難点ですが、遠隔授業を、対面授業のあまり出来のよろしくない代替品と考えるよりは、精神衛生上良いとは感じますし、何か積極的なものが生まれてくる予感のようなものもあります。できたら二、三年続けさせてみてほしい……いえいえ、そんなことコワくて言えませんが！

ほけんのお話

新型コロナウイルス感染症拡大による長引く自粛生活で、生活不活発な状態にある、運動する機会や運動量が減った、お家時間が増えるなどでストレスを抱える方が多いのではないのでしょうか。自粛緩和で外出する機会や都道府県境をまたぐ人の移動も増え、感染の再拡大の警戒を緩める状況にはありません。引き続き、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスク着用、③手洗い、そして、④こまめな換気、⑤3密(密集・密接・密閉)の回避、⑥毎朝の体温測定を実践することは大事なことです。

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言を受けて、各損害保険会社は、火災保険、自動車保険、傷害保険などの各種損害保険(自賠責保険を除く)について、継続契約の手続きや保険料のお支払いを猶予できる特別措置、傷害保険は傷害(ケガ)を補償するもので、新型コロナウイルス感染症は対象外ですが、特約により新型コロナウイルス感染症を保険金の支払い対象とする商品改定などを実施しています。

また、出入国の緩和もあり、学会や研究活動で海外に行く方が増えてきます。海外旅行保険では、新型コロナウイルスの影響で現地を出国できない場合に保険期間を自動延長する特別措置を実施すること、新型コロナウイルス感染症にかかった場合も補償の対象とするなど商品改定を実施しています。詳しいことは損害保険代理店に問い合わせるといいと思います。



北大キャンパスの遺跡へ行こう

最終回 近現代の「遺構・遺物」

北海道大学埋蔵文化財調査センター 高倉 純



大学病院ゼミナール棟地点発掘調査の全景

北海道大学が残したモノ

これまで8回にわたって、北海道大学のキャンパスから発見されてきた様々な埋蔵文化財についてご紹介してきました。キャンパス内には、過去のヒトが残した、住居や墓、漁労施設などの様々な営みの痕跡が各所に残されているのですが、最終回では、掘り出された「最も身近」なヒトの活動の痕跡を取り上げたいと思います。それは、北海道大学が地下に残した、様々な活動の痕跡です。

発掘調査では、地表面から掘り下げを進めていくわけですが、その過程で、活動に伴うモノたちにはしばしば遭遇することになります。そうしたモノたちは、日常的な生活の場面で使用されていたがゆえに、当事者の



写真1：断面での病院食器の出土状況

記憶からも抜け落ちやすく、また文献や映像などの記録にもなかなか残されないものと言えるでしょう。しかし、近現代史の新たな一断面を知る手がかりにもなりえるものです。

大学病院ゼミナール棟地点の発掘調査

大学病院の北側で、会議室棟の建設に先立って実施されました。この発掘調査では、地表下約1.2～1.4mの深さから続縄文文化の後北B・C1式土器と呼ばれる時期(約1,900～1,800年前)の遺物や遺構が発見され、当時のキャンパス・サイトの様子がわかる貴重な成果が得られました。

この発掘調査の過程で、地表下0.8m程の深さから、食器や容器、ガラス製品などが含まれている投棄坑が発見されました(写真1)。深さは約1.2m、上場の幅が約20m、下場の幅が約0.8mの規模でした。埋積過程からみて、比較的短期の間に投棄された、一括性の高いモノが残されていたと考えられます。そのなかにはプラスチック製の医薬品広告付きカレンダーが含まれており、昭和14年と15年のものであったことから、太平洋戦争開始前後に残されたモノではないかと推定されます。

大学病院食器

この「遺構」から発見された最も数の多い「遺物」は、硬質陶器の食器類です(写真2)。生地は黄色味を帯びた白色で、高台を含め透明釉が施されています。



写真2：病院食器の出土状況

た。椀や皿、蓋などの器種が認められます。椀の場合には口縁部外面、皿の場合には口縁部内面に、青色や緑色の二重圏線が特徴的に認められます。

これらの陶器には、胴部外面や底面内面に「北海道帝國大學醫學部・附属醫院」の印が(写真3)、そして底面には「日本硬陶」の印があるものが含まれていることから、明治41年に金沢で創業した日本硬質陶器(現ニッコ)製の食器類が、大学病院に納品され、使用されていたことを示しています。こうした硬質陶器の病院食器類は、近年、金沢大学や京都大学、九州大学、徳島大学、広島大学などでも発見されており、規格性の高い陶器食器が大学関連病院で使用されるという文化が、昭和前期に全国的にひろがっていた



写真3：出土した病院食器

ことをうかがわせます。その生産や供給の体制がいつ、どのようになされたのかを把握するのにあたって、近現代の「遺物」の発見が果たす役割は小さくはありません。

8回にわたり連載いただいた「北大キャンパスの遺跡へ行こう」は今号で最終回となりました。北大キャンパスの地下に眠っている先人たちの営みを知り、何気ない構内の景色に歴史の積み重ねを感じていただけたのではないかと思います。

高倉先生ご寄稿ありがとうございました。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■新企画「新入生応援活動」を実施しました

Zoom上で新入生同士がお話できる「オンライン話そう」という企画や、新入生の不安や疑問を解消する公式LINEアカウントを開設しました。オンライン話そうは6月下旬の土日に計4回開催し、のべ83人の新入生に参加してもらいました。4時間近くしゃべったグループもいましたよ！

■「オープンキャンパス活動」動き始めます

9月20日にオンラインでの開催となった北大のオープンキャンパスに向けて、活動を練り始めています。今年はどうな感じになるのか見当つきませんが、頑張っています！

■学生委員会公式HP

<http://hokudaiqi.web.fc2.com/>

■学生委員会公式Twitter

@HU_COOP_GI_CS

学生委員会の活動や学生委員の日頃の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをご覧ください。

■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。
これからも学生委員会をよろしくお願ひします!!

院生委員会

■37名の院生総代とともに活動を行っていきます

5月末に行われた総代会に向けて総代選出を行いました。今年度は過去数年間で最多の37名の総代を選出することができました。今後総代会議などを開催し、大学院生にとっても使いたいと思える生協を作っていくような意見集約発信をしていきます。

■院生委員会公式Twitter

@Hokudainsei_coo

北大大学院生に向けて情報を発信するために、今年度4月より再稼働しました。世の中のたくさん情報の中から北大の大学院生にかかわる情報を発信しています。今後は北大大学院生対象のアンケートなども実施予定です。大学院生や大学院進学予定の学部生のみなさんはぜひご覧ください。

■院生委員会連絡先

hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp

現在、院生委員会では大学院生や大学院受験を控えた学部4年生のみなさんにどのような活動・サポートができるか検討しています。困っていることや要望があればぜひご連絡ください。

留学生委員会

■留学生パンフレット 2020年度版

毎年好評をいただいております、北大生協留学生委員会発行の「留学生パンフレット」の2020年版完成しました。今年度版では新たに食堂メニューのアーゲン表示についてのページを追加しました。生協各店舗にて配布しております。

※冊子は新型コロナウイルスの影響が広がる前に発行しており、一部掲載の行事等が実施されない場合もございます。なにとぞご容赦ください。



教職員委員会

■教職員総代会議…学内7ヶ所で8月・1月を除く毎月1回、昼休みに利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様にご利用の立場から色々なご意見をうかがっています。

6月・7月は、コロナ禍の中、2、3カ所のエリア合同で、3日間にわたりWEB会議での開催となりました。

■教職員委員会…毎月1回開催し、総代会議であがった組合員の声や、「きぼうの虹」に掲載する記事内容について討議しています。6月18日・7月16日に開催しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

8回にわたり連載していただいた「遺跡へ行こう」が今号で最終回となりました。今回の連載で、北大構内の地下に実に様々な遺跡があることを知りました。次回からは新シリーズ「文書館へ行こう」がスタートします。お楽しみに。

【編集後記】

コロナ対策に明け暮れる日々が続く。何事も災い転じて福と為すの気持ちで乗り切って行かなければ、先行きは暗くただただ厳しい道になるばかり。
ところで新型コロナウイルスと人類との戦いを戦争に例える人も居るが、本当の戦争はこれに比べようも無く悲惨でむごい。まもなく敗戦75周年の夏が来る。